関宿町における石塔に見る水神信仰

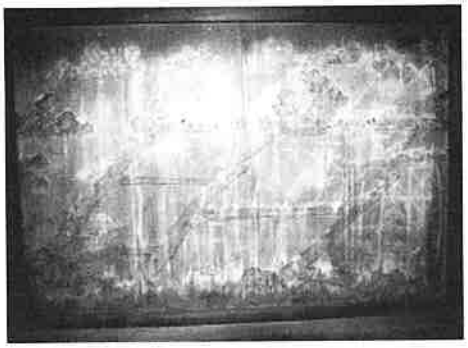
石田年子

はじめに

埼玉県庄和町倉常地区の鎮守倉常神社内には、明治三年に奉納された「洪水絵馬」が飾られている。既に色褪せて図柄がハッキリしないことが惜しまれるが、念入りに見ると泥の海と化した田の畦道を土嚢や棒を担いで走る人や、堤防に立ち俵積みや岸辺の土砂の流出を防ぐため竹の棒を立てている人など、総勢百数十人の人物が描かれている。又、水没した民家のそばに浮かぶ何艘もの和船は逃げ遅れた者の救出に当たっているのだろうか。神前で熱心に祈る人の姿も見て取れ、薄れた絵とは云え強い緊迫感が伝わってくる。

昭和十六年に記された『木間ヶ瀬の歴史・災害』にも『明治三年七月十三日より一週間大豪雨あり、十九日洪水。同八月、大嵐。出洲兵三郎前及び大山下、切れ所』とあり、江戸川をはさんで東西に数キロ離れた中川と利根川べりで同時期に当絵馬と同じ光景が繰り広げられていたものと推測される。

このように堤防構築の確たる技術を持たなかった時代、人の力で水害から地域を守ることにはおのずと限界があり、人々は天候が温順で農作物の実りの多い事や水防、航行の無事等の願いを水神信仰に求めた。特に北端で利根川が分流し両側を大河が流れるという関宿町にとって、水神への信仰もまた格別なものがあると考えられ、当地域に残る水神系の石仏からその状況を追ってみる事とした。



庄和町・倉常神社　洪水絵馬

一、関宿町の水神系石塔

次頁の表は関宿町の水神系の石塔（以後、水神塔と称す）を私自身が数年間かかって調査したものである。水神堂はもとより、堤防下、橋のたもと、用水わきや地区の神社境内に加えて、各地区のお祭りの際の「お札くばり」や「梵天まわし」に同行させて頂いた折りに目にした各戸の屋敷神も入れている。

元禄の頃、祖先が高瀬舟に乗っていたという個人宅の宝永二年（一七〇五）の水神から、昭和四七年（一九七二）造立の青龍権現までの二六七年の間に九〇基もの水神塔が確認され、未だ発見されていないものや既に崩れたり埋もれたりしたものもあると考えると、両端を大河に抱えられた住人達の「水」に対する畏れの深さが想われる。

表を見てまず驚く事は、願いの用途・造立場所・時代の流行などに寄って造立されていった水神塔の多彩さである。

次に、確認した水神塔の説明と当町に於ける特徴を述べてみることとする。

1・水神宮　水神宮の文字塔が全体の半数以上を占める。これ以後の水神は性格・氏素性がはっきりしているが水神宮についてはそれがなく、水神系神仏の総称であろう。

㋑利根川に面した坪（小字地区）には各坪講中の造立した水神宮が確認される。又、講中の造立がない場合も地区の中心者宅の水神を坪の水神宮として奉っていた形跡があり、殆どの坪に独自で奉る水神宮が存在していたものと思われる。

㋺河岸連・渡し場同行中・船持中など河川交通にかかわるグループの造立もみうけられる。

㋩洪水の際の堤防決壊の場所、所謂「切れ所」や、洪水の水死者供養など造立のきっかけは様々である。子供達が川で泳ぐ際は必ずそれらの水神を拝んでから水に入ったのだという。

関宿町水神系石塔一覧

表1

No.	種別	住　　所	種　類	和暦	西暦	形態	造立者	造立場所
1. 水神塔								
1	1	木間ケ瀬松ノ木　個人宅	水神宮	宝永2年	1705	原型不明	個人	個人宅庭
2	2	木間ケ瀬武者土　個人宅	水神宮	元文4年	1739	笠付角柱	個人	個人宅庭
3	3	木間ケ瀬出洲　水神社内	水神宮	元文5年	1740	笠付角柱	出洲坪	利根川堤防下
4	4	木間ケ瀬飯塚　水神堂内	水神宮	延享3年	1746	笠付角柱	河岸連/子供中	利根川堤防下
5	5	木間ケ瀬武者土　畑中	水神宮	寛延2年	1749	笠付角柱	個人	畑中
6	6	木間ケ瀬内野堤根　個人宅	水神宮	宝暦8年	1758	角　柱	個人	沼、用水そば
7	7	木間ケ瀬上納谷　水神堂	水神	宝暦13年	1763	笠付角柱	渡し場同行中	利根川堤防下
8	8	木間ケ瀬〆切　水神堂内	水神宮	安永4年	1775	笠付角柱	〆切坪	利根川堤防下
9	9	桐ケ作　揚排水機場内	水神宮	安永6年	1777	笠付角柱	桐ケ作氏子中	利根川堤防下
10	10	木間ケ瀬大山　個人宅	水神宮	安永8年	1779	角　柱	個人	元・阿部沼畔
11	11	岡田　香取神社	水神宮	天明元年	1781	笠付角柱	岡田村中	江戸川寄り
12	12	木間ケ瀬高倉　高倉橋脇	水神宮	天明6年	1786	笠付角柱	高倉講中	用水橋そば
13	13	木間ケ瀬前村　個人宅	水神宮	天明6年	1786	笠付角柱	個人	個人宅庭
14	14	木間ケ瀬堤根　石仏群中	水神宮	寛政3年	1791	角　柱	講中八名	用水そば
15	15	古布内高倉　石宮橋脇	水神宮	寛政12年	1800	角　柱	高倉坪中	用水橋そば
16	16	木間ケ瀬〆切　藤井店前	水神宮	享和3年	1803	駒形角柱	個人	用水橋そば
17	17	木間ケ瀬内野　神明神社	水神宮	文化2年	1805	角　柱	個人	江戸川寄り
18	18	古布内表　表橋脇	水神宮	文化11年	1814	笠付角柱	子供講中	用水橋そば
19	19	岡田　個人宅	水神宮	文政3年	1820	駒形角柱	個人	個人宅庭
20	20	柏寺　サイクリングロード	水神宮	文政4年	1821	角　柱	個人	江戸川堤防下
21	21	個人宅根石仏郡	水神宮	文政9年	1826	駒形角柱	個人	元・阿部沼畔
22	22	親野井　八坂神社	水神宮	文政10年	1827	笠付角柱	個人	江戸川堤防下
23	23	木間ケ瀬砂南　個人宅	水神宮	天保2年	1831	笠付角柱	個人	元・阿部沼畔
24	24	木間ケ瀬下根　個人宅	水神宮	天保4年	1833	駒形角柱	個人	元・阿部沼畔
25	25	木間ケ瀬〆切　藤井店前	水神宮	天保4年	1834	角　柱	個人	用水橋そば
26	26	東宝珠花　稲荷社	水神宮	天保8年	1837	角　柱	個人	江戸川寄り
27	27	木間ケ瀬飯塚橋脇　水神堂内	水神宮	天保14年	1843	角　柱	個人	利根川堤防下
28	28	木間ケ瀬上納谷　水神堂脇	水神宮	天保14年	1843	笠付角柱	個人	利根川堤防下
29	29	台町納谷　柳島稲荷社	水神宮	弘化2年	1845	角　柱	講中	利根川堤防下
30	30	木間ケ瀬内の堤根　個人宅	水神宮	安政3年	1856	駒形角柱	個人	用水そば
31	31	台町上谷中　水神社堂内	水神宮	安政4年	1857	角　柱	船持中	利根川堤防下
32	32	岡田　香取神社	水神宮	安政4年	1857	駒形角柱	丸井村中	江戸川寄り
33	33	木間ケ瀬堤根　堤根石仏群	水神宮	文久4年	1864	笠付角柱	講中	用水そば
34	34	親野井　個人宅	水神宮	江戸期		笠付角柱	個人	個人宅庭
35	35	古布内新敷　新敷橋脇	水神宮	明治8年	1875	角　柱	新敷坪若者中	用水橋そば
36	36	岡田　権現神社	水神宮	明治11年	1878	駒形角柱	岡田村中	江戸川そば
37	37	木間ケ瀬出洲	水神宮	明治11年	1878	笠付角柱	個人	利根川堤防下
38	38	木間ケ瀬下根　畑脇	水神宮	明治30年	1897	自然石碑	講中(水死者供養)	元・阿部沼畔
39	39	堀之内　十二神社	水神宮	明治32年	1899	自然石碑	信者中	利根川堤防下
40	40	柏寺　堤防下	水神宮	昭和2年	1927	自然石碑	柏寺下坪氏子中	江戸川堤防下
41	41	木間ケ瀬小作　稲荷神社	水神宮	昭和4年	1929	自然石碑	個人	用水そば
42	42	木間ケ瀬内野堤根　個人宅	水神宮	昭和9年	1934	駒形角柱	個人	用水、沼そば
43	43	平井　県道脇富士塚中	水神宮	昭和20年	1945	自然石碑	個人	路傍
44	44	木間ケ瀬飯塚橋脇　水神堂内	水神宮	文化		角　柱	個人	利根川堤防下
45	45	木間ケ瀬大山　坂下	○神宮	○化元年		角　柱	7地区講中25名	元・阿部沼畔
46	46	木間ケ瀬飯塚橋脇　水神堂内	銘文無し	江戸期		駒形角柱	不明	利根川堤防下
47	47	木間ケ瀬〆切　個人宅	水神社	明治期		自然石碑	個人	利根川堤防下
2. 水天塔								
48	1	木間ケ瀬出洲　水神社境内	水天宮	天保3年	1832	駒形角柱	出洲坪講中	利根川堤防下
3. 倶利伽藍不動塔								
49	1	木間ケ瀬砂南　個人宅	倶利伽藍不動	文政2年	1819	駒形角柱	個人	元・阿部沼畔

4. 井戸水神塔

50	1	木間ケ瀬下根　個人宅	井戸水神	慶應2年	1886	駒形角柱	個人	個人宅庭
51	2	平井　県道脇	井戸水神	明治22年	1889	自然石碑	個人	路傍

5. 青龍権現塔

52	1	平井　真蔵院入り口	青龍権現	昭和16年	1941	自然石碑	講中	墓地入口
53	2	木間ケ瀬前村　個人宅	青龍権現	昭和47年	1972	自然石碑	個人	個人宅庭

6. 龍神塔

54	1	木間ケ瀬前村　個人宅	竜王大神	明治31年	1898	自然石碑	個人	個人宅庭
55	2	木間ケ瀬飯塚　個人宅	龍神	明治期	1885	自然石碑	個人	個人宅庭

7. 大柳大龍権現塔

56	1	台町下谷中　大柳大龍神社	大柳大龍権現	慶應3年	1867	山型角柱	下谷中氏子中	利根川堤防下

8. 八大竜王塔

57	1	木間ケ瀬堤根　堤根石仏群	八大竜王大権現	文化10年	1813	笠付角柱	水腐高村中	用水そば
58	2	木間ケ瀬高倉　個人宅	八大竜王	明治11年	1878	駒形角柱	個人	個人宅庭
59	3	木間ケ瀬〆切　個人宅	八龍神社	明治18年		角　柱	個人	利根川堤防下

9. 辯財天塔

60	1	木間ケ瀬新宿　弁天社	辯天宮	文政3年	1820	角　柱	個人	用水そば
61	2	木間ケ瀬内野　神明神社	辯天宮	天保2年	1831	笠付角柱	個人	湿地そば
62	3	木間ケ瀬志部前堀　駒形神社	辯財天福寿位	慶應3年	1868	角　柱	氏子中	用水そば
63	4	平井　香取神社	辯財天	明治45年	1912	自然石碑	女人講中	江戸川堤防下
64	5	木間ケ瀬下根　個人宅	辯財天	明治19年	1886	自然石碑	個人	個人宅庭
65	6	木間ケ瀬新宿　個人宅	辯財天	明治19年	1886	自然石碑	個人	個人宅庭
66	7	岡田　権現神社	辯財天	大正7年再建	1918	自然石碑	個人	江戸川そば
67	8	木間ケ瀬下根　個人宅	辯財天	大正13年	1924	駒形角柱	個人	個人宅庭
68	9	古布内表　個人宅	妙徳辯天	大正14年	1926	自然石碑	個人	個人宅庭
69	10	木間ケ瀬新宿　県道脇	弁財天	昭和10年	1935	自然石碑	個人	路傍
70	11	平井　個人宅	辯天宮	不明		自然石碑	個人	個人宅庭
71	12	岡田　個人宅	辯財天	不明		自然石碑	個人	個人宅庭

10. 厳島塔

72	1	木間ケ瀬松ノ木　天満宮	厳島大神	明治		笠付角柱	個人	元・田のそば
73	2	木間ケ瀬出洲　個人宅	厳島神社	記銘無し		自然石碑	個人	利根川堤防下

11. 宇賀神塔

74	1	東宝珠花　日枝神社	宇賀神	明治42年	1909	自然石碑	氏子	江戸川堤防下

12. 大杉塔

75	1	木間ケ瀬出洲　水神社内	大杉大明神	元文5年	1740	笠付角柱	講中	利根川堤防下
76	2	江戸町30　江戸町香取神社	大杉大神	明治か		自然石碑	講中	江戸川堤防下
77	3	納谷　個人宅	大杉大明神	記銘無し		自然石碑	個人	個人宅庭
78	4	新田戸　八幡神社	大杉大神	明治21年	1888	笠付角柱	新田戸氏子	利根川そば
79	5	古布内高倉　石宮橋脇	大杉大明神	慶應元年	1865	駒形角柱	高倉坪中	用水橋そば
80	6	木間ケ瀬飯塚　白山神社	大杉大明神	天保6年	1835	笠付角柱	上組引附講中	境内

13. 金比羅塔

81	1	木間ケ瀬砂南　個人宅	金毘羅大権現	文久元年	1861	笠付角柱	個人	路傍
82	2	木間ケ瀬下根　香取神社	金毘羅大権現	文久2年	1862	角　柱	氏子	境内
83	3	古布内　八幡神社	琴平神社	明治14年	1881	自然石碑	信者中	郷の沼そば
84	4	古布内新敷　個人宅	金毘羅大神	明治17年	1884	自然石碑	個人	個人宅庭
85	5	堀之内　雷電神社	金比羅宮	明治21年	1888	自然石碑	個人	利根川堤防下
86	6	東宝珠花　日枝神社	琴平神	明治42年	1909	自然石碑	氏子	江戸川堤防下
87	7	東宝珠花　日枝神社	金毘羅宮大権現	記銘無し		角　柱	個人	江戸川堤防下

14. 船玉塔

88	1	台町下谷中　大柳大龍神社	船玉大神	明治		自然石碑	個人	利根川堤防下
89	2	木間ケ瀬飯塚　水神堂内	船玉大明神	文政3年	1820	角　柱	個人	利根川堤防下

15. 水波賣神塔

90	1	古布内山　個人宅	水波賣神	明治30年	1879	自然石碑	個人	個人宅庭

㈡昭和半ばまで関宿町と野田市中里に亘って、阿部沼という大きな沼が存在しており、肥料用の水草の採取や魚漁を行っていたが、ここも一度大雨が降ると四方から流れ込む内水によって氾濫し、潰家や水死者が出ることもあった。元阿部沼付近の家には、阿部沼畔に所有していた土地に奉ってあった水神を、沼開発に伴い自宅に引き上げた家が数件ある。

木間ヶ瀬　飯塚　水神堂

2．**水天宮**　水天宮は十二天の一つと云われる。『日本石仏事典』によると、「水天喜ぶ時は二の利あり。一に人身渇せず。二に雨沢時に順ず」と記され、処によっては安産の神としての信仰もある。関宿町には木間ヶ瀬出洲の水神社境内に一基、天保三年の塔が立つ。

3．**倶利伽藍不動**　竜が巻き付いた剣を呑み込もうとしている像容で、成田山などでよく見かけるタイプだが、一般的な石仏としては珍しいものである。水神として滝口や清水の涌く水辺に奉られる。当町唯一の倶利伽藍不動は旧家の堂内に納められているが、後ろが阿部沼に続く湿地であったことから、元は湧水か沼地に立っていたと推測される。

4．**井戸水神**　文字通り、井戸を枯渇や汚れから守護して貰うのが目的である。

5．**青龍権現**　娑掲羅竜王の三女・善女竜王といわれ、弘法大師が雨乞いを行った時に現れ、以後雨乞いの本尊ともされたという。町では昭和以降のものが二基確認される。

6．**龍神**　水神信仰と竜宮信仰が習合して多くの龍神が世間で語られている。関宿町には氏神として明治年代のものが二基。

7．**大柳大龍権現**　下谷中の大柳大龍権現神社のご神体に刻まれた名である。江戸後期このあたりに巨大な川柳が生えており、利根川を行く船頭達の目印であったと「利根川図志」に記されている。それに纏わる水神であろうか。

8．**八大龍王**　龍は雨を呼ぶといわれる架空の動物だが、その龍族を代表する八龍王をいう。石仏の造塔としては、全国的にはそう多いとは云えない水神だが、なぜか野田市周辺には江戸後期の塔が多くみられる。

木間ヶ瀬・堤根の八大竜王は、文化十年に水腐高村中というグループが造立している。『木間ヶ瀬の歴史』によれば、「文化十二年 この年三度冠水、田はみな水腐れ。山口代官へ年貢米免除の申請」とあり、こんな状況が続いた時代だったのだろう。

9．**弁才天**　七福神の唯一の女性として琵琶を手にした天女の像が広く知られている。池や沼などの水辺に水神として奉られているが、処によっては花柳界の女性達に信仰される場合もある。神使は白蛇である。

1番の新宿・弁天社の弁天様は、家の為に身売りして死んだ遊女の供養に造立したものと伝えられ、婦人病などに霊験あらたかで地域の女性達に信仰されていた。関宿町も人口増加の少なかった数十年前迄は、いたる所に澄んだ湧水が涌いており、現在は個人の庭に立つ弁才天も、所有する田畑や湧水のそばに奉ってあったものが多い。

10．**厳島神社**　広島の厳島神社よりの勧請と思われる。弁才天と同じ性格の女神の水神で、松ノ木天満宮の石塔は天神沼(現在なし)のそばに奉ってあり、人形などが沢山供えられていたものを神社に引き上げてきたと云う。

11．**宇賀神**　あまり造立の多い神ではないが、蛇の頭が老人の顔になっている人頭蛇身の像塔が、弁才天と同じく水神として信仰される。当町には、東宝珠花・日枝神社の富士塚に琴平神と併刻された文字塔が立つ。

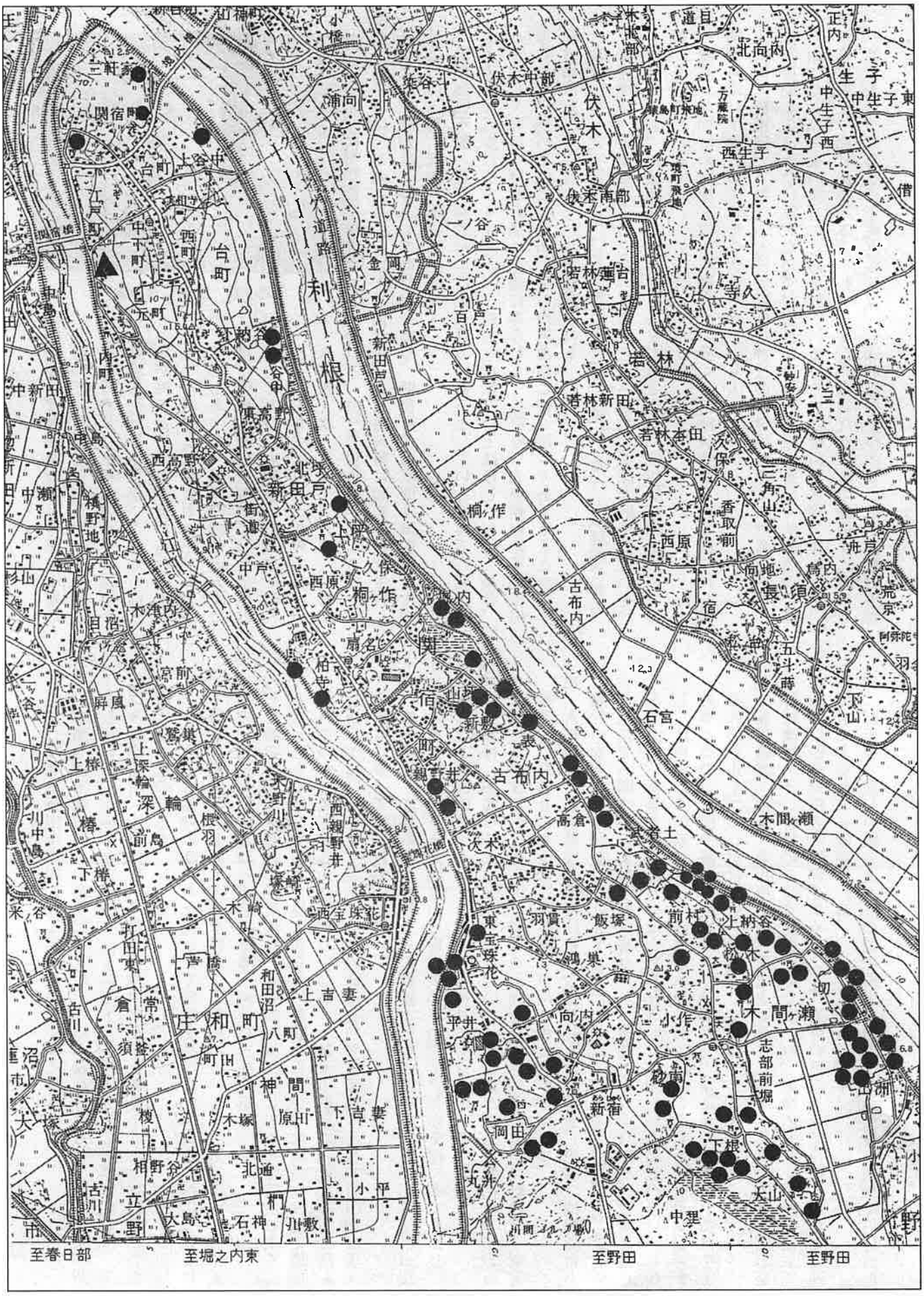
12．**大杉神社**　茨城県稲敷郡桜川村の大杉神社よりの勧請。疱瘡・疫病除けと航行の安全を守る利益有りとして、利根川水系の舟運関係者の信仰を集めた。

現在でも関宿町の大杉信仰は盛んだが、舟運というより疫病除け等に重点がおかれ、夏祭りや辻きりには大杉神社のお札が配られる地区が多い。しかし、江戸期から明治にかけて造立された六基の石塔の造立目的は舟運関連であるようで、木間ヶ瀬・白山神社に立つ塔は渇水期に舟の運航の手助けをする人夫グループの「引付講中」が造立している。

13．**金比羅宮**　讃岐・香川県の金比羅宮を勧請したもの。讃岐の金比羅宮の祭神は薬師・十二神将の一つ宮毘羅大将と云われ、航海の安全を守る神として全国的に船運関係者の信仰を集めている。当町の造塔も高瀬舟の船頭など舟運関係者によるものと推測される。

14．**船玉神**　新しい船の進水式の前に船主と船大工が丑三時に密かに帆柱付近

図１　関宿町水神塔分布図



に穴をあけて御霊を納める神事があり、船玉様は人に見られるのを嫌うとされることから御神体の内容や場所は秘密とされた。船玉は女神と考えられており、御神体は主に女性の毛髪・紙の男女の人形・銭・賽ころなどであった。町内には利根川べりに舟運関係者と思われる個人造立の塔が二基ほどある。

15．水波賣神　「みずはのめのかみ」と読み、古事記や日本書紀などに記される神道系の水神の女神である。明治三十年に地元御嶽講社「丸古講社」の大先達・岩本静の屋敷内に埴山姫と併刻された塔が立つ。

二、水神の立つ場所

図1は関宿町地図に水神塔の位置を書き入れたものであるが、九〇基の大半が中南部の江戸川・利根川べりと旧阿部沼の畔に集中しており、北部・旧関宿藩領のまばらさと対照的な事が見て取れる。特に北部の江戸川沿いにおいては水神塔が全く確認出来ていないが、幕藩期に繁栄を極めた江戸町には嘗て水神堂（図中▲印）が存在し、文化三年作成の「五街道其外分間延絵図並見取絵図のうち関宿多功道見取絵図」にも描かれていることから水神信仰がなかった訳ではなく、石塔を造立する信仰形態が希薄だったか、水神に変わる信仰対象（不動信仰など）があったとも考えられる。

中・南部地区の水神塔の現在奉られている場所は、何度もの河川改修や干拓工事、宅地造成などによって移動されたものが多く、傾向など一概にはいえないが利根川隣接地の地区で奉る水神塔は、川に平行して流れる悪水落し（随庵堀）に架かる橋の脇に立つものが多く、この用水を川と生活空間との境・結界と考えたとの推測もできる。

三、出洲地区の水神比射

強固な堤防が築かれ水害の心配が無くなった現在、当地の水神信仰も忘れ去られる傾向にあるが、今でも一月の半ば頃に「水神比射」を行う地区や、秋に水神灯籠の祭りを行う地区が何カ所か存在する。

木間ヶ瀬・出洲地区はかつて猿島から江戸に向かう旅人達が利用した「長谷の渡し」があり、また利根川水系の舟運に携わる船頭達の多い集落でもあった。その為か水神への信仰は深いものがあり、地区の水神社では現在毎年一月二七日に水神比射が行われる。

最後に平成九年に私が見聞した水神比射の様子を紹介して、この稿を終わりとしたい。

水神比射の当番は地区で八組に分かれているグループが順番であたる。早朝、当番の男性達が天狗の頭の附いた幣束を持って地区全戸を廻り、お祓いと集金を済ませた後に「水神宮・大杉大明神」の幟旗の立てられた「宿」の家の庭先で、水神様へ供える料理作りがはじまる。

木間ヶ瀬　出洲地区　水神比射

その年の当番によってメニューは変わるが、基調は海・山・河・畑の作物や収穫物である。「川のもの」に関しては、大皿に鯉の刺身を浪に見立てた盛りつけや鯉こく、大鮒の塩焼きなどが用意される。まだ利根川の水が綺麗で人々が今のように忙しくなかった頃には、当番が自ら川に出て何日もかけて漁をして鯉や鮒などを用意したのだというが、現在は野田市の川魚屋に注文して購入している。

作りあげたそれらの供物を、男性達が戸板にのせて水神社に運び込んだ後、三々五々お参りに訪れる参拝者に御神酒が振る舞われ、夕方三時頃に水神社は閉じられる。夜には上・中・下に分かれた三組が各グループの宿に集まり宴会が行われ（現在は合同で水神社脇の会館で行っている）、水神比射は終了するのである。

【参考文献】
岩田慶順編『木間ヶ瀬の歴史』　関宿町教育委員会（一九四一）
日本石仏協会編『日本石仏図典』　国書刊行会（一九八六）
庚申懇話会編『日本石仏辞典』　雄山閣（一九八〇）
房総石造文化財研究会編『房総の石仏百選』　たけしま出版（一九九九）
辻野吉勝・辻野弥生「洪水と水神信仰」『東葛流山研究　十二』流山市立博物館友の会（一九九二）

（客員研究員）